



新たなメディアと世論：SNS が変える情報社会

現代社会において、SNSは世論形成に大きな影響を与えています。従来の世論調査とは異なる特性を持ち、社会の分断、偽情報の拡散、政治的 attitude 形成など、様々な側面に関わっています。

このプレゼンテーションでは、SNSの特性やバイアス、潜在的な問題点と可能性について多角的に考察します。単にSNSを「悪者」扱いするのではなく、その複雑な影響を理解し、より健全な情報社会の実現に向けた提案を行います。

両極の意見が増える特性



世論調査の特性

無作為抽出に基づく世論調査は客観的に見えますが、回答者の知識や関心度によって受動的な意見が含まれる可能性があります。ブルデューはこの点を批判しています。



両極化する意見

山口真一准教授と筆者の調査結果によると、SNS上では両極端な意見がより多く発信されており、社会の意見分布を歪める可能性があります。



ネット世論の特性

特定の意見を持つ人が積極的に発信するため、代表性には欠けますが、能動的で強い思いが込められています。



評価の陰に様々なバイアス

購入バイアス

商品を実際に購入した人だけが評価するため、購入前に評価を見て購入を諦めた人の意見は反映されません

J字型分布

これらのバイアスにより、Web上の星評価は「J」字型になりやすく、必ずしも客観的な評価とは言えません



報告バイアス

極端に良い体験や悪い体験をした人ほど評価を投稿する傾向があります

協力関係バイアス

売り手と買い手の間に協力関係が生まれ、批判的な評価を控える場合があります

Web上の評価やアンケート結果に向き合う際には、これらのバイアスを考慮することが重要です。表面的な数値だけでなく、その背景にある要因を理解する必要があります。

社会の分断との関連性

フィルターバブルとエコーチェンバー

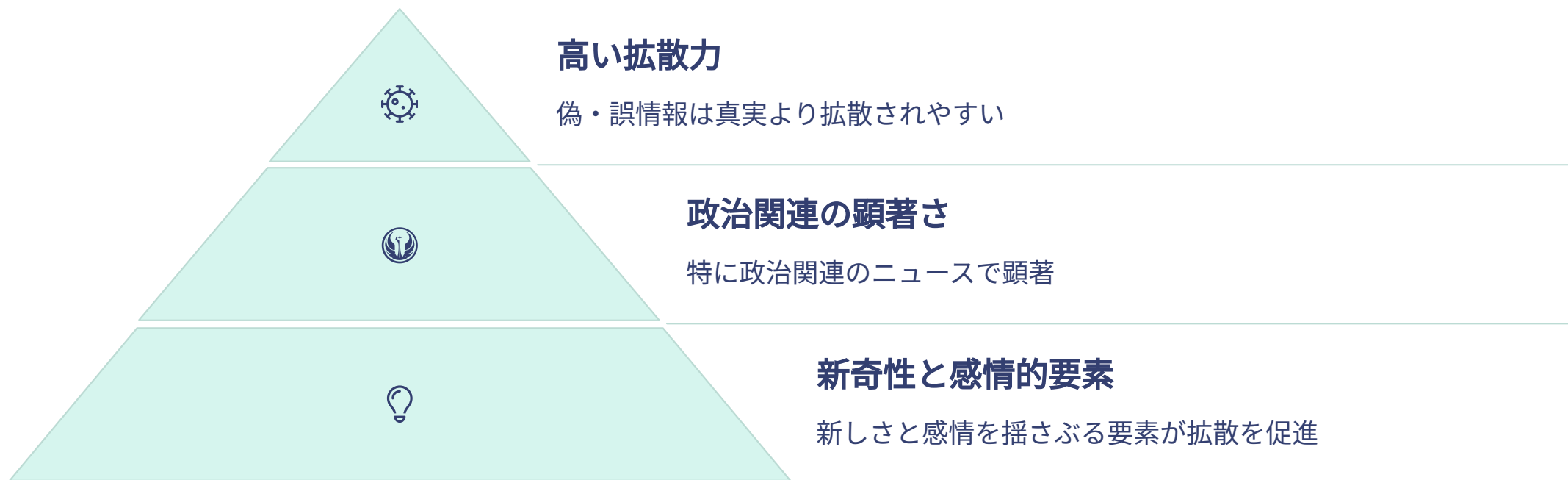
個人の好みに最適化された情報に囲まれることで、視野が狭まり、考え方が偏る現象です。SNSのアルゴリズムによって、自分の意見と似た情報ばかりに接触することになります。

しかし、近年の研究では、これらの現象が必ずしも社会の分断を促進するとは限らないという結果も出ています。もともと極端な考えを持つ人がさらに極端になるだけだったり、個人の選択がより大きな影響力を持つという研究結果も存在します。



SNSの影響力を過大評価することには注意が必要です。社会の分断は、SNS以外の要因も複雑に絡み合って生じている可能性があります。

拡散力が強い偽・誤情報



偽・誤情報が拡散されやすい理由は、その新奇性と感情を揺さぶる要素の強さにあります。人々は、感情的に訴えかける情報に強く反応する傾向があるため、偽・誤情報が拡散されやすくなります。

特に政治関連のニュースでは、この傾向が顕著に表れています。真実のニュースよりも偽・誤情報の方が拡散力が高いという研究結果も出ています。

伝統的な理論で見るSNS

第三者効果

「自分は影響されないが、他者は影響される」と考える傾向です。SNSにおけるデマや誤情報の拡散を説明する上で重要な概念です。人々は、自分は影響されないと思っていても、他者が影響されることを恐れて、行動を起こすことがあります。

沈黙のらせん理論

多数派の意見に同調し、少数派の意見は表明されにくくなるという理論です。SNSによってこの現象は変化しつつあります。SNSでは、自分の意見に近い情報にばかり接することで、孤立の恐怖を感じにくくなります。

SNSによる変化

世間的には少数派でも、SNSで仲間を得ることで声を発しやすくなります。これは健全な言論市場の形成を妨げる可能性がある一方で、少数派の意見を増幅させる可能性もあります。





政治的態度形成と選挙への影響



メタ社の実験結果

米メタ社の内部データを用いた実験では、アルゴリズムやフィルターバブルが個人の分極化を促進するという一般的な見解を裏付ける結果は得られませんでした。



複雑な要因

個人の政治的態度は、多様な変数の複雑な絡み合いによって形成されるため、SNSの影響だけで全てを説明することはできません。



2024年衆院選への影響

X（旧ツイッター）上での各政党に対する雰囲気と、比例代表における「勝ち具合」には高い相関関係が見られました。



若年層の変化

SNSで情報収集し、意見を投稿し、投票にも行くという層が若年層を中心に広がっています。国民民主党の玉木雄一郎代表のネット戦略が奏功した可能性も指摘されています。

SNSの未来：課題と展望



ファクトチェックのジレンマ

政治的バイアスの可能性と構造的課題



寡占状態の打破

ネットワーク効果による少数プラットフォームの支配



ソーシャルグラフのポータビリティ

友人関係の持ち運びによる競争促進

ファクトチェックは誤情報拡散防止に重要ですが、特定グループの情報の対象になりやすいという構造的課題があります。SNS市場はネットワーク効果により寡占状態になりやすく、これを打破するためにソーシャルグラフのポータビリティ（持ち運び）が提案されています。

これが実現すれば、ユーザーは気軽にアプリを移行でき、SNS間の競争が促進されるでしょう。より健全な情報社会の実現には、SNSの特性を理解した上で、その可能性を最大限に引き出す環境整備が重要です。